2021
北九州SDGs未来都市アワード

報告書

主 催

北九州市、北九州ESD協議会

Kitakyushu SDGs

2021
北九州SDGs未来都市アワード

主　催　北九州市、北九州ESD協議会

応募資格　北九州市内を中心にSDGsやESDの普及に貢献し、SDGsの達成に寄与する活動を展開している学校・団体・企業の活動

表彰部門　● 市民部門　● 企業部門

賞の種類

SDGs大賞　SDGs達成にあたり、他者のモデルとなる極めて優れた活動と認められるもの

ESD賞　SDGs達成にあたり、他者のモデルとなる優れた活動のうち、特に教育や人材育成の観点において極めて優れた活動と認められるもの

SDGs賞　SDGs達成にあたり、他者のモデルとなる優れた活動と認められるもの

選考基準

項　目	内　容
SDGsとの関連性	持続可能な社会の実現に向け、環境、経済、社会の視点を組み入れ、取り組む課題や目的を明確にしているか。
協働	多様なステークホルダー（人や団体）と、どのように協働しているか。
意識や行動の変化	課題解決のための学び合いや実践を通じて、個人の価値観・態度・行動の変容、地域力の向上及び社会の変容に影響を及ぼしているか。また、今後、他の活動に波及することが期待されるか。
選考委員の独自の選考基準	SDGsやESDの有識者からなる選考委員が、それぞれの専門分野の観点から選考項目を設定し、選考を行う。

受賞数　13件（SDGs大賞：2件、ESD賞：2件、SDGs賞：8件、奨励賞：1件）

表彰の背景・目的

❶北九州の持続可能な社会づくりの「原点」は公害克服

ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）は、持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人を育む教育です。

1960年代、北九州市では、深刻な公害を、婦人会の取り組みをきっかけに、市民・企業・行政等が協働して克服した歴史があります。この歴史を「ESDの原点」と位置づけ、2006年9月に設立した北九州ESD協議会を中心に、これまで様々な立場の人が、持続可能な社会づくりのための活動を推進してきました。

❷世界共通の目標 SDGsとESD

そのような中、2015年に「誰一人取り残さない」という理念のもと、国連加盟国193か国の全会一致で、**SDGs**（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）が採択されました。近年、SDGsという世界共通の目標の達成と、その人材育成を担うESDはますます重要になっています。

❸持続可能な社会に向けた活動を表彰

こうした世界的な動きをうけ、北九州市と北九州ESD協議会は、SDGsやESDの普及と、活動者の意欲の向上を図り、本市でのこれらの活動をより発展させるため、「持続可能な社会づくり」やそれを担う「人づくり」活動を表彰することを目的に、「北九州SDGs未来都市アワード」を実施しました。

婦人会による公害克服運動

大学・企業・自治体も協力し、公害を克服
（省エネ型生産工程や公害防止機器整備）

公害克服の経験と技術を世界・次世代へ
（インドネシア・スラバヤ市での
コンポストによる生ごみ堆肥化事業）

「今」もひろがり続けるESDの輪
（北九州ESD協議会での講演会、イベント）

受賞者の活動紹介

市民部門

SDGs大賞	特定非営利活動法人 抱樸	3
ESD賞	北九州市立 熊西小学校	4
	九州共立大学・TEAM洞海湾	5
SDGs賞	一般社団法人 森人未來ノ研究所	6
	北九州市立 すがお小学校	7
	小倉城竹あかり実行委員会	8
	北九州市立 合馬小学校	9
	北九州市立大学 三宅ゼミ	10

企業部門

SDGs大賞	エプソン販売 株式会社	11
SDGs賞	光和精鉱 株式会社	12
	環境テクノス 株式会社	13
	響灘菜園 株式会社	14
奨励賞	株式会社サンレー	15

その他今回応募いただいた皆様 …… 16

選考委員（敬称略・五十音順）

〈委員長〉■石丸　哲史（福岡教育大学 教授）

〈委員〉■大島　順子（琉球大学 准教授）

■大田　純子（IGES北九州アーバンセンター 研究員）

■澤　克彦（九州地方環境パートナーシップオフィス コーディネーター）

■重松　由貴子（一般社団法人 北九州銀行協会 株式会社 福岡銀行 北九州市庁内支店長）

■實松　秀男（北九州商工会議所 産業振興部長）

■竹本　明生（国連大学 サステイナビリティ高等研究所 プログラムヘッド）

■田中　由美子（九州女子大学 教授）

■遠矢　弘毅（株式会社 北九州家守舎 代表取締役）

SDGs大賞

受賞者の活動紹介

特定非営利活動法人 抱樸

市民部門

活動名

空き物件を活用した支援付き住宅事業

活動目的

生活困窮者支援の実践から「住まい」が社会保障制度の基盤であることに着目し、かねてより住宅支援を行ってきました。近年、コロナ禍の影響で仕事と住居を失った人が多く、一刻も早い住まいの確保が必要です。一方で全国には空き家が800万戸あると言われています。その空き家を活用し、住み続けられる支援の仕組みを立ち上げることで、空き家問題の解消と生活困窮者の生活基盤の整備を目的としています。

活動概要

◎支援付き住宅事業とは

全国的に空き家は増え続けていますが、生活に困窮している人は、容易に住居を借りることができないのが現状です。そこで、この課題を解決するため、複数の戸数の空き家などを家主から、一括で借り上げ、低額で貸し出すとともに、入居者に専門の相談員がつき、就労や生活のサポートを行い、新しい生活のスタートを支援します。

生活の中の困りごとに
支援員がしっかりと寄り添います

◎全国へ抱樸モデルを普及

2017年から開始した支援付き住宅事業を、コロナ禍だからこそ有効と考え2020年にクラウドファンディングを実施して資金を集め、全国9団体とパートナー契約を締結し、抱樸モデルでの支援付き住宅事業を展開しています。抱樸は旗振り役で、支援関係等のチェック体制を整備し、スキル向上の合同研修会も実施しています。

全国の団体が集まり、事例の共有や
今後の課題について検討を重ねています

成果と今後の展望

空き家問題と、住宅確保を要する生活困窮者の問題を同時に解決するモデルとなりました。支援実施団体にとって、経費の確保は重要課題でしたが、住宅事業と支援を組み合わせることで、持続可能な支援事業になりました。支援に関して寄付や助成金等に頼るという発想になりがちな福祉事業者にとって、公的資金を入れずに支援を実施できた意義は大きいと感じています。

全国に支援付き住宅モデルを普及させるための全国組織も立ち上がったため、今後はそこでの議論をさらに深め、支援実績及びビジネスモデルとしての検証を進めていきたいと考えています。

支援付き住宅の室内の様子

主な協働機関	支援団体、企業、不動産所有者等
選考委員からの評価	●生活の基礎である「住まう」ことに真摯に視点を持ち、複合的な課題解決に取り組んでいる。 ●「空き家」「生活困窮」との社会問題を結び付け、公的資金を使わず支援している点が素晴らしい。 ●支援された人の感想などが示されると、さらに意義の大きさが伝わると考える。

ESD賞

受賞者の活動紹介

北九州市立 熊西小学校

市民部門

活動名

SDGsの視点から生活を見直そう！

～未来の熊西をよりよくするための「私たちの提案」～

活動目的

6年生の国語科の時間に、「熊西の町をよりよくするための提案書」を作成する学習活動を実施しています。今年度は「SDGsの視点から生活を見つめ直す」という視点で作成し、完成した提案書やポスターは市民センターとのコラボレーションによって、地域の年長者の方々も集まる場所に展示されます。子どもたちの声を地域の人がしっかりと受けとめ、SDGsを推進する姿が町の随所でみられるような、地域住民の意識変化を目指しています。

活動概要

◎提案書の作成

子どもたちは「SDGs17の目標」の中から11の目標を選び、その実現に向けて「自分たちにできることはないか」と調査活動を行い、「身近なことから始める・考えるSDGs」について提案する文章を作成しました。

◎地域への発信

完成した提案書は、校区の熊西市民センターに提示し、訪れた年長者の方々がコメントを記述できる仕組みを整えました。

「飢餓をゼロに！」「その電気、使わないならわけあおう！」など、SDGsの目標達成を呼びかけるポスターも作成し、多くの通勤通学者が通る学校沿いのフェンスに掲示し、道行く人々に児童の想いを伝えています。

提案書作成
グループ会議の様子

作成した提案書の掲示
（熊西市民センター）

ポスターを学校のフェンスに
掲示している様子

成果と今後の展望

学習後、エネルギーや物に対する節電や節約の気持ちを深めた児童、男女の服装への偏見を見直した児童、さらには「これまでSDGsの達成はどこかの機関の仕事だと思っていたが、本当は自分たちの小さな心がけが大切だとわかり意識して行動するようになった」という児童など、さまざまな成長の声を聞くことが出来ました。子どもたちは、それまでは「他人事」と捉えていたSDGs17の目標を、調査活動や友達との意見交流などを通して「自分たちに可能な小さな心がけ」に置き換え、SDGsの目標を達成する主体者となれたようです。

提案書やポスターは評判となり、熊西校区のまちづくり協議会から他の地域へ情報発信されたり、市民センター文化祭での展示を依頼されるなど、より多くの方の目に触れる機会を得ました。小学生による提案書に大人が刺激され、目標達成に向かう起爆剤になるよう、今後の波及効果も期待したいところです。

主な協働機関	市民センター、企業、教育機関、行政機関、NPO法人
選考委員からの評価	●できることから行動に移したいと、生徒の意識に変化が表れている。 ●地域のESD拠点である市民センターをSDGsのハブとして活用し、地域への波及を行っている。 ●今後は他学年への影響や連携も期待したい。

ESD賞

受賞者の活動紹介

九州共立大学・TEAM洞海湾

市民部門

活動名

洞海湾！
絶滅危惧植物再生プロジェクト

活動目的

洞海湾奥にある干潟の清掃活動中、ゴミの下から絶滅危惧種である「シバナ」や「ハマボウ」などの貴重な塩生植物の群落が見つかりました。この干潟が本来の浄化機能を再生し、絶滅危惧植物が生育する環境と生物多様性を保全するために、また、市民が憩える海辺空間を創造するために、私たちは、継続的に干潟の清掃および保全活動を行っています。参加者の洞海湾へのシビックプライドが醸成し、息の長い活動になるようにバトンをつなげる人材の育成も目指しています。

活動概要

このプロジェクトは、2004年（平成16年）にNPO法人「北九州ビオトープ・ネットワーク研究会」との連携で始めた清掃活動がきっかけです。貴重な塩生植物が発見されてからは、植物専門家でもあるメンバーのアドバイスを受けながら、洞海湾干潟の環境保全と再生を協働して行っています。

大学コンソーシアム関門（北九州市立大学、九州共立大学、九州国際大学、西日本工業大学、下関市立大学）では、公開講座「関門の自然環境とそのエネルギー」において、洞海湾と絶滅危惧塩生植物に関する講義を行い、学内ビオトープで繁殖させた「シバナ」を視察する学習の場を設けています。

また、堀川まちおこし事業実行委員会「堀川いっせい清掃」など、他団体との協働清掃も行い、市民の関心を高めています。

多量のごみの下から
“絶滅危惧塩生植物”を発見！

干潟でのシバナの移植

成果と今後の展望

清掃活動はプロジェクトメンバーだけでなく、一般の親子連れや企業のCSR活動としての参加など、徐々に増えています。活動を通じて、洞海湾の歴史や自然環境について学ぶ機会を提供することもできました。ただ、過去に公害という社会問題を克服したはずの洞海湾に、不法投棄されたり、漂着したと思われる多種多様なゴミがあまりにも多く、参加者は大変驚いています。

一方、そこで発見された絶滅危惧塩生植物をいかに保護していくかが課題となり、シンポジウムを開催し、市民や専門家が情報交換を行いました。その後、大学研究施設において種の採取・播種・繁殖を行い課題を解決し、貴重塩生植物の保護が可能となりました。

今後も、洞海湾干潟の貴重植物を通して、北九州市の海辺の環境や景観を考える機会を市民に提供すると共に、SDGsという観点から「まちづくり」や「海の豊かさ」において、重要な資源となることが期待されます。

市民向けの自然観察会

主な協働機関	地域、NPO法人、企業、大学
選考委員からの評価	●専門的知識と活動を通じ、市民参加型に特化して、環境保全に寄与できている点が評価できる。 ●関わった学生自身が成長を実感していることが分かる感想があるとさらに良い。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

一般社団法人 森人未來ノ研究所

市民部門

活動名

「竹の環境循環プロジェクト」

Ecology（環境保護）とEconomy（経済）のWエコ循環

活動目的

私たちは、公益的機能を維持したより良い里山を保全して、再生可能な資源・竹を活用することを目的に活動を行っています。地域課題となっている放置竹林について、竹がCO_2を吸収する再生産性の非常に高い再生可能資源と捉え、竹を原材料とした商品や技術を開発し、実用化することで地域産業に展開し、「地域課題」「環境」「地域企業」が三方良しとなる、Ecology（環境保護）とEconomy（経済）の両立や、自然とテクノロジーの共生を目指しています。

活動概要

「未来の子どもたちに里山の美しい姿を残したい。持続可能な資源として渡したい」と小倉南区の有志が集まり誕生した研究所です。放置竹林の整備をはじめとする里山の保全活動や、竹材などの再生可能な資源化に向けた研究、開発および販売を、以下のようにさまざまな団体との協働で行っています。

【九州工業大学】竹を原材料とする高機能素材の研究、開発

【三和綜合土木、シャボン玉石けん】塗料や生分解性パッケージなど、竹を原材料とする高機能素材の実用品製品化

【北九州市立総合農事センター】竹を原材料とする農業及び園芸用土壌改良資材を使った育成調査と食味試験

【福岡県立小倉商業高等学校】放置竹林問題を県全体へ周知、竹炭パウダーなど竹を原材料とする商品の開発、流通

【北九州市立すがお小学校】地域課題学習、竹を原材料とする土壌改良資材を使った野菜栽培実験

福岡県立小倉商業高等学校と
放置竹林の整備

北九州市立すがお小学校と
竹由来の土壌改良資材を使った寄植作成

成果と今後の展望

北九州市は山間部、海沿い、都市部、農村部があり、地域ごとにさまざまな面を持っています。放置竹林の問題は、当初は山間部以外の地域の方々は冷淡な反応でした。しかし、放置竹林問題の解決に向けた当法人の活動を知ると、徐々に賛同者は増加し、漁業従事者の方々が養殖筏用の竹を佐賀や熊本産から北九州産の物に変えてくれたり、農業従事者の方々が竹を使った土壌改良資材を利用するようになったり、教育・研究機関では高機能素材の研究を木材から竹材に変えて行うようになったりと、今後の広がりも期待しています。

福岡県立小倉商業高等学校や北九州立すがお小学校と協働で行った、放置竹林問題に関する環境学習では、始めは受け身だった子どもたちも、それぞれの立場で、どのように問題解決できるかを考え行動したことで、シビックプライドの醸成と人材の育成に役立っています。

北九州市立総合農事センターでの
育成調査

主な協働機関	地域、企業、教育機関、行政機関、NPO法人、研究機関
選考委員からの評価	●幅広い組織・教育機関との連携、多彩な竹活用方法など、創意工夫と実践力がある点が評価できる。 ●バックキャスティング的思考が生かされている。 ●全国的な課題であり、商品化に向けた取り組みに期待する。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

北九州市立 すがお小学校

市民部門

活動名

川と森を守り持続可能な社会に繋げる「竹パウダープロジェクト～つなげよう、ふるさと『すがお』」

活動目的

校区を流れる紫川を軸に、地域の「ひと・もの・こと」と関わりながら、探求的、協働的な学習を展開しています。今年度は、きれいな紫川を未来へつなぐためには森を守ることが必要であることを理解し、地域での課題になっている放置竹林の問題に取り組んでいます。地域の方々や団体とつながりながら竹の有効活用を模索し、児童が情報発信も行うこのプロジェクトは、地域の問題を市民に伝える目的もあり、持続可能な社会の担い手の育成にもなっています。

活動概要

◎竹を「すがおの宝」に

6年生は総合的な学習の時間に、里山が竹ばかりになっていく現状から、竹の有効活用について学び、竹パウダーに着目しました。地域の方への取材や、本やインターネットで検索し、さまざまな竹パウダーの活用方法や効果についての情報を収集し、地域の方々や団体とつながりながら、竹パウダーを活用した野菜づくりに挑戦し、その明らかな効果を実感しました。

竹パウダーを活用した大根づくり

◎地元の団体と協働で「竹害から竹財へ」

野菜栽培実験に提供されたのは、実際に地域の放置竹林から土壌改良資材として「森人未來ノ研究所」が生産した竹パウダーで、地域の放置竹林の竹が「竹害から竹財へ」と生まれ変わる過程や効果を共有しました。

竹パウダーをまいて土壌改善

◎リーフレットで情報発信

竹パウダーの魅力を地域の方々に広めたいと、児童はその効果をリーフレットにまとめ、保護者や市民センター、小倉南区役所などに配布しました。

成果と今後の展望

児童は探求活動を通して、多くの方々や団体と触れ合い、里山や竹、紫川について、より深く学ぶことができました。竹パウダーを利用した野菜作りでは失敗も経験しましたが、実践している農家の方を招き指導していただいたことで再チャレンジし、大きな成果を得ることができました。田畑広がる地域へ愛着を覚えるなど、シビックプライドの醸成にも効果があったようです。

リーフレットに描かれた、「竹の有効活用で竹林問題を解決したい」という児童の願いが、地域の人々の心も動かしています。そんな市民の賛同が社会に変化を起こし、自然豊かな里山の持続につながると信じて、今後も、全校生徒で発達段階に応じた課題解決への取り組みを実施していきます。

市民センターへのリーフレットの配布

主な協働機関	地域、企業、教育機関、行政機関、NPO法人
選考委員からの評価	●河川の環境と森林保全との関係に着目している点が評価できる。 ●「竹害・竹財」という捉え方から、デメリットを解消しメリットを生かす問題解決思考を育成できている。 ●今後、他学年への連携や段階的な発展も期待したい。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

小倉城竹あかり実行委員会

市民部門

活動名

第三回小倉城竹あかり

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任
15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

活動目的

小倉の街中を市民力で活性化したいと、2019年より小倉城を数万個の竹灯籠などで飾るイベントを開催しています。農村部で問題となっている放置竹林の竹を観光に生かし、再資源化も実行する、持続可能な社会への意識向上を促す活動です。北九州独自の「循環型社会」のモデルケースとして、また、観光推進につながるビッグイベントとして、恒例化を目指しています。今回は「世界体操・新体操選手権北九州大会」に合わせて開催し、北九州市のＰＲにも寄与しました。

活動概要

◎市民力で成し遂げる

地域自治会や商業高校、商店街や市民団体から約4,000名に及ぶボランティアにご参加いただき、小倉南区の放置竹林より約40トンの竹を伐採し、作業場に運び、竹灯籠を23,000 個、竹紙約7,000 個を作成します。小倉城の天守閣に飾り、当日の運営から撤去まで全て市民で行い、参加する楽しさも共有します。

◎環境の好循環

使用する数万個の蝋燭の一部は、グリーンケミカル事業を推進する企業と協働で開発した、地球環境にやさしい植物性油脂を使用したもので、使用後の竹は、里山保全に尽力する企業により土壌改善剤となり、再利用されます。

◎観光推進や経済循環

小倉城だけでなく街中全体にも竹の灯りを灯し、街中から小倉南区の合馬へと結ぶ観光プランを作ります。商店街では合馬の名産「筍」の料理を提供するお店を増やし、SDGs講座や竹のワークショップを開催し、地域の魅力をPRします。

約6,000個の竹灯籠の並ぶ「銀河」。
環境に配慮した蝋燭は、市民の手作りです。

SDGsの竹紙灯籠。
市内の小学生約7,000名にSDGsをイメージしながら描いて頂きました。

竹の切出しから運搬。
竹灯籠の作成・設置・点灯・撤去まで、市民の力で運営します。

成果と今後の展望

「小倉城竹あかり」は年間を通してのプロジェクトで、多くの企業や団体との協働は不可欠ですが、世代間交流からも大きな成果を得ています。昨年度の開催時に、竹灯籠を束ねる作業で効率性を考えてセロテープやホッチキスを大量に使ったところ、高校生の皆さんからSDGsの理念から外れているとの指摘がありました。中高年の実行委員会役員たちと、SDGs教育を受けた若い世代との意識の違いが明らかになり、多くの気づきがありました。「私達がSDGsを若者から教えていただく」「共にSDGsを学ぶ」と意識を変え、今年度はセロテープなど石油系素材のものは前回の10分の1未満に抑えています。

今後も日常の挨拶や言葉遣いから見直し、質の高い世代間交流やパートナーシップで、「つくる責任つかう責任」の意識を高めます。地域や企業の皆様からの信頼度が増せば、「小倉城竹あかり」をより一層成長させることとなり、北九州市民のシビックプライドの醸成にも繋がると考えています。

主な協働機関	地域、企業、教育機関、商店街、市民団体
選考委員からの評価	●本プロジェクトを通じてさまざまな世代の人たちが関わり、SDGsの目標に幅広く関連している。 ●北九州の風物詩として定着しつつあり、地方創生の一翼を担っている。 ●量的・質的成果が示されるとさらに良かったのではないか。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

北九州市立 合馬小学校

市民部門

活動名

つながる・つなげる・合馬の魅力

～合馬神楽、農業体験、交流体験～

活動目的

本校は、のびのびフレンドリースクール（小規模特認校）として、校区外からも児童の転入学を受け入れている公立小学校で、今年度の教育スローガンは「つながる・つなげる・合馬の魅力」です。合馬子ども神楽や竹細工、竹札かけなどの文化体験、稲作や野菜作りなどの農業体験など、地域に根ざした体験型の学習を通じて、合馬の「ひと・もの・こと」とつながりながらシビックプライドを育み、自分の思いや感謝の気持ちを表現できる児童の育成を目指しています。

活動概要

○合馬子ども神楽、竹細工、竹札かけ（全校児童）・下関市立吉母小との交流（全校児童及び保護者・本校ＯＢ）

合馬子ども神楽は合馬神楽保存会が基礎から丁寧に指導し、舞手が６年生、「楽」は３～５年生、神楽の由来を紹介するのが１・２年生。５年生は、篠笛や太鼓、摺り鉦等の「楽」のリーダーを務め、６年生と息を合わせた演奏となるように努めています。竹細工教室は地域の方による学年に応じた内容で、交流60年を越えた下関市立吉母小学校との交流会の土産として制作します。

「四つ鬼」を舞う6年生

○稲作（1・2・5年生）・野菜作り（全校児童）・門松作り（６年生）

農業体験は、毎年、地域の方に体験用の田畑をお借りして実施し、稲作は1・2年生向けと5年生向けの2箇所の田んぼで、5年生は種もみから発芽させた古代米（赤米）の苗で田植えをします。もち米も育て、収穫したもち米で年末には地域の方と保護者総出で餅つき体験（全校児童）をしています。

1・2年生による田植え体験

成果と今後の展望

地域振興部会と校長も参加した「合馬校区活性化事業」の話し合いは活発で、本校の児童増と地域振興の両立を願う地域の熱い思いを実感しました。

スローガンの成果がもっとも顕著だったのは、４～６年生の児童が運動会で披露する伝統行事の「よさこいソーラン」です。初めて踊る４年生に５・６年生が振り付けや踊り方を指導するなど、子ども同士で教え合う姿が見られました。合馬子ども神楽においては、5年生は「６年生になったら、舞ができる」ということも大きなモチベーションになっており、立派に舞手を務める６年生は憧れの存在であり、合馬の伝統を継承する立派な担い手となっています。

竹細工の作品は、「交流先の吉母小学校の友達にプレゼントする」という目的を持たせることで、心を込めて取り組もうとする心情を育んでいます。

子どもたちの活動はさまざまなメディアで取り上げられ、合馬地区の伝統や魅力を周知する機会も得ており、今後も内容を精選して実施する予定です。

門松づくりをする様子

主な協働機関	地域、保護者、教育機関
選考委員からの評価	●自然、伝統など地域性のある活動に、地域の人たちに助けられながら全校で取り組んでいる。 ●学年ごとのステップアップが児童にも明らかで、モチベーションの維持と継続性が担保されている。 ●体験型学習の目的を知らしめる他地域へのPRや波及があるとさらに良い。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

北九州市立大学 三宅ゼミ

市民部門

活動名

「北九州もったいないっちゃ！すごろく」を遊んで、北九州の特産物や名所、現代の環境問題について学ぼう！

4 質の高い教育をみんなに　12 つくる責任 つかう責任　17 パートナーシップで目標を達成しよう

活動目的

「世界の環境都市」を目指す北九州市では、未来の担い手となる子どもたちに向けた年齢別の環境教育副読本を用意しています。三宅ゼミではその副読本をヒントに、また、副読本へ興味を向かわせる導入ツールとして、小学生が楽しみながら北九州市の特産物や名所、環境問題について学べる「すごろく」を制作しました。日々の行動を振り返ることができる内容で、北九州市への愛着を深め、自主的な地域貢献ができる子どもの育成を目的としています。

活動概要

三宅ゼミ（主にESD/SDGs教育を実施）で行っている藍島プロジェクトでのビーチクリーニングでは藍島小学校の児童や守恒子供会、若園子供会の子どもたちと協働で活動。大学内でのフードドライブや、フードパントリーでは、コロナ禍で困窮してしまった大学生に市民センターの協力のもと、食料を提供するなど、学生主体で手掛ける実習学習が盛んです。今年度は食品ロス削減の教材開発を発展させ、フードバンク北九州ライフアゲインの援助、協働で、すごろくを制作しました。

短い文章で「エコ活動の実践的事例の紹介」「環境配慮行動のチェック」「北九州市の地域的特色の紹介」が小さいマスに収められており、サイコロを振って止まるとそのマスの文章を読み、合わせて付属の解説書を読むことで、より詳しく学べるようになっています。

「北九州もったいないっちゃ！すごろく」のPR動画（YouTubeより）

未来ホタルデーに出店した時の様子

成果と今後の展望

最初は小学生に伝えるためでしたが、より深く北九州の魅力やSDGs、環境問題について学んだことで、北九州市への理解、関心を高めています。地元出身ではない学生が市役所への就職を志望するようになったり、ゼミでは「エコライフステージ」への参加意欲も示しています。

現在、コロナ禍にあり、小学生にすごろくで遊んでもらう機会がない状況ですが、今後は教育長からも推薦をいただいたSDGs推進校やユネスコスクールでの実施や、近くの守恒市民センターや公民館などでも多くの小学生に遊んでもらい、環境学習への意欲向上に役立ててほしいと考えています。

また、このすごろくを遊ぶことで、少しでも多くの人が、北九州市に愛着を持ち、北九州を楽しい街にしようと仕掛ける側の人になることを期待します。

北九州市立大学でフードパントリーを開催したときの様子

主な協働機関	地域、教育機関、自治体、行政機関、NPO法人
選考委員からの評価	●学生の主体的な活動で、行動・意識の変容が見られる。 ●遊びを通じて北九州の魅力が学習できるところが評価できる。 ●すごろくの発展的な活用方法を提示して、広げていってほしい。

SDGs大賞

受賞者の活動紹介

エプソン販売 株式会社

企業部門

活動名

「KAMIKURU」プロジェクト

～紙の循環から始める地域共創プロジェクト～

活動目的

「KAMIKURU（カミクル）」は、地域で生まれる古紙を回収し、アップサイクルすることで紙の循環に新たな価値を提供する、地域共創プロジェクトの愛称です。地域の一人ひとりが身近な紙の循環システムを理解することで、環境負荷低減に貢献でき、SDGsの理解も深めます。この活動を通じ、多様な関係者とのサーキュラーエコノミーの実現や、さらには障がい者の雇用機会創出・拡大、SDGsの未来を担う人材育成を目指します。

活動概要

北九州市八幡東区を中心に、紙の循環を実施しています。地域の企業、団体、学校、自治体等の協働により使用済みの古紙を回収し、乾式オフィス製紙機「PaperLab（ペーパーラボ）」で再生し、さらにエプソンのプリンターを利用して再生紙からアップサイクル品の開発・共創・地域還元を行っています。「PaperLab（ペーパーラボ）」とは、「オフィスで紙をリサイクルする」をコンセプトに開発された製紙機で、水をほとんど使わず※再生紙を生産できるため、大がかりな給排水設備を必要とせず、環境負荷低減に貢献するものです。

紙の循環システムの運営を行うのは、障がい福祉サービス事業所を運営する「NPO法人わくわーく」。障がい者と共に、古紙の回収、紙の仕分け、PaperLabでの再生紙作り、配達などの古紙リサイクル作業に加えて、再生紙を使ったアップサイクル品の制作・供給も担っています。地元百貨店の井筒屋や教育機関との協働によるアップサイクル品のアイテムも多数あります。

※：機器内の湿度を保つために少量の水を使用します。

古紙の回収、再生紙やアップサイクル品の作成を担う、わくわーくの皆様

井筒屋では社内の古紙を分別・回収して、「きたきゅうコロンブス」の手提袋や小袋へアップサイクルしてお客様へ提供

成果と今後の展望

福岡教育大学附属小倉中学校では、英語、国語、保健体育等で「KAMIKURU」の要素を取り入れた教科横断授業を実施したところ、全校生徒が「北九州市・環境首都検定」を受検するなど、授業以外での学びも強化したようです。中間高校、八幡高校においても「KAMIKURU」をテーマにSDGs教育を行うことで、多くの生徒から「SDGsの大切さについて理解が深まりました」との声が寄せられており、今後の行動変容が期待できます。

「NPO法人わくわーく」を利用する障がい者の方は、従来の定型就労に留まらない施設外就労を通し、地域の方々との関係構築、新たな業務への挑戦によって就労意識が高まり出勤率が上昇しています。

多くの参画企業では古紙回収を実施することで、社員の取り組みや意識変革に繋がっており、更なる地域循環共生圏の拡大を目指します。

小倉中学校での「KAMIKURU」プロジェクトの授業風景。未来の社会を作るプレイヤーとして、真の力をつけることを目指している。

主な協働機関	地域、企業、教育機関、行政機関、NPO法人、研究機関
選考委員からの評価	●アップサイクルによるサーキュラーエコノミーの実現を目指していることが有意義である。 ●多様な組織・教育機関との連携・支援がなされ、実践内容も多彩である点が評価できる。 ●北九州独自の視点、課題への関わりを明確にして、発展させてほしい。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

光和精鉱 株式会社

企業部門

活動名

適正な廃棄物処理と効率的な資源循環によるサーキュラーエコノミーと働きがいのある職場の実現

活動目的

製鉄原料の製造および廃棄物処理を行う企業で、ゼロエミッションを使命に、地球環境保全・地域社会への貢献に取り組んでいます。多種多様な産業廃棄物を、独自の塩化揮発技術により埋め立て処分がゼロの完全リサイクル化を可能とし、国や産業界からも高い評価を得ています。従業員一人ひとりがSDGsにおける「真のゆたかさ」や自社の取り組みへの理解を深め、誇りを持って働けるよう、社内ではSDGs研修なども行っています。

活動概要

◎技術革新

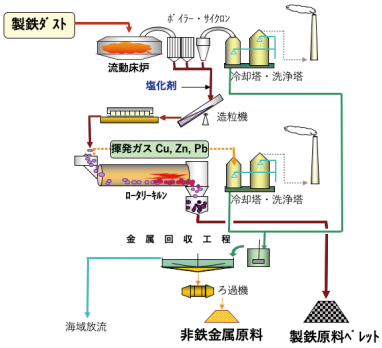
塩素を使い、金属成分を分離・回収する独自開発技術「塩化揮発法」を用いた適正な廃棄物処理と効率的な資源循環を追求し、環境保全・負荷軽減を実施し、有毒物質を無害化する技術の革新で、ものづくりを支えています。

◎他団体との協働

「NPO法人北九州環境保全の会」と連携した定期清掃活動、働き方改革に向けた「北九州イクボス同盟」への参加、運送会社40社と構成する「光和安全会」では安全確保とサービス向上を目指すほか、関係先との資源循環の仕組み作りなど展開しています。

◎社員と学ぶSDGs

2021年1月の「光和精鉱株式会社SDGs宣言」より社内にて推進委員会を設置し、北九州市立大学教授を招き、年間計画でSDGs研修を実施。委員は毎月SDGsかわらばんでの啓発活動や、高校の出前授業やSDGs見学も受け入れています。



塩化揮発法の概要について

毎月1回の
ボランティア清掃活動

成果と今後の展望

顧客は国内を代表する製造業社が多く、自治体からの難処理廃棄物の受託実績も多数で、今後も新たな産業に対応した廃棄物処理の研究開発を続け、循環型社会のビジネスモデルとしての新たなステージを目指していますが、多様な価値観を持った人財を最大限活用する企業風土の創造が課題です。

SDGs宣言は、従業員一人ひとりが北九州市の取り組みやSDGsに対する理解を深めるきっかけになりました。毎年従業員が受験する北九州市環境首都検定応援団では団体の部で優秀賞をいただき、社内アンケートでのSDGs認知度は100%を達成するなど成果は顕著です。毎月実施する清掃活動も、家族を巻き込むなど、年々参加者が増加しています。今後もSDGsを理解し実施できる「人財」を育成し、地域社会の持続可能な発展にも貢献していきたいと考えています。

北九州市立大学教授を招聘した
SDGs研修

主な協働機関	地域、自治体、企業、教育機関、行政機関、NPO法人、研究機関
選考委員からの評価	●自社の誇る技術を生かしながら環境保全の王道を歩む、持続可能な取り組みである。 ●深刻な焼却残渣の埋め立て対策から地域のゴミ拾いまで、社会問題に広く関わっているところが評価できる。 ●市内企業など、他者への波及も期待したい。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

環境テクノス 株式会社

企業部門

活動名 **環境への取り組み**

活動目的

公害問題に悩まされていた時代から、環境に関わる測定、分析、調査、コンサルタントを行い、環境産業の発展に貢献してきました。公害問題は地球環境問題へと広がり、持続可能な経済社会への期待からエネルギー問題、資源循環問題へと社会ニーズは大きく変化しました。価値ある情報・技術を提供できる人材育成に積極的に取り組み、北九州市のSDGsモデル都市、環境未来都市としての発展にも寄与しながら、時代に対応した環境貢献の推進を目指しています。

活動概要

環境総合コンサルタントとして、年々高まる環境問題に取り組んでいます。創業時から続く環境測定・分析（水質、大気、騒音・振動、臭気、廃棄物など）をはじめ、自然保護に向けた環境調査や環境アセスメント、環境課題にソリューションの提供、環境エネルギーに関するコンサルタント（再生可能エネルギー活用の推進）、エコアクション21の適切な運用、エンジニアリング、研究開発など、多岐に渡る事業を通して持続可能な社会の構築に貢献しようと取り組んでいます。

以下の産学官民と連携の国際協力、普及・啓発活動の実績も多数あります。
●九州環境エネルギー推進機構（K-RIP） ●北九州環境ビジネス推進会（KICS） ●北九州市環境産業推進会議 ●北九州商工会議所 ●北九州ESD協議会 ●日本環境測定分析協会 ●日本アセスメント協会

環境総合コンサルタント

中国大連市での環境ビジネス交流

成果と今後の展望

北九州市はかつての灰色の街から快適な街に転換しています。日本最大級のリサイクル工場群の「エコタウン」をはじめ、産業開発と環境保全の調和を目指す「KITA（北九州国際技術協力協会）」や環境ビジネス手法でアジア地域の脱炭素化を推進する「アジア低炭素化センター」が、それぞれの技術やシステムを国際展開するなど、環境先進都市として高く評価されています。

当社も環境事業計画策定委員会や国際的な環境活動への参加により、社員の環境意識は向上し、2015年には若手社員が中心となって、「始動！環境コンシェルジュ」を企業ビジョンに掲げるなど、環境をテーマに顧客、社会への貢献を意識するような組織を醸成するに至りました。

SDGs17の目標やパリ協定の国際合意で、日本も2050年までにカーボンニュートラルを達成するという目標を掲げ、新たなグリーン化の時代を迎えています。私たちは、これからも社会とのリンクを重視し、産学官民の連携、業務の充実、付加価値生産性の向上、人材育成により持続可能な社会を目指します。

中国に環境対策指南（上海復旦大学）

主な協働機関	地域、企業、教育機関、行政機関、研究機関
選考委員からの評価	●環境に関わるこれまでの実績が生かされている。 ●本業だけでなく「環境未来都市 北九州市」のためにさまざまな形で地域貢献している。 ●「協働」の具体的な内容や取り組みをもう少し分かりやすく示してほしい。

SDGs賞

受賞者の活動紹介

響灘菜園 株式会社

企業部門

活動名

1.子ども食堂支援
2.循環型土壌保全
3.肌荒れトマトの活用

活動目的

食品ロスが社会問題になる中、生鮮トマトとしては販売できない“肌荒れトマト”が、年間100トン近く廃棄されています。廃棄量削減のため、トマトを使ったメニューの開発を大学と協働して活用を図るとともに、お弁当や食材提供で子ども食堂を支援しています。大量廃棄されるトマト葉には、同様に大量廃棄されている珈琲カスを混合し、植物性堆肥・培養土を製造、無償配布することで、環境保全への意識醸成や、CO_2排出量削減も目指しています。

活動概要

◎生鮮トマト・お弁当の提供

小倉北区の飲食店Gill&coさんにて調理されたお弁当毎月50食と生鮮トマトを、NPO法人「あそびとまなび研究所」が運営する子ども食堂へ提供しています。2020年には、コロナ禍でのエッセンシャルワーカー（医療関係者・児童養護施設・保育園等）へも生鮮トマトを提供しました。

◎植物性培養土の提供

エコライフステージにて植物性堆肥・培養土を無料配布しました。

◎肌荒れトマトの活用

北九州市子ども家庭局の子育て支援課と九州栄養福祉大学の大村教授のご協力のもと、規格外トマトを使ったメニューを開発し、クレカきっちんでのイベントにて紹介します。また、Gill&coさんが「ぬか炊きディップ」という加工品に使用したことで、北九州のお土産用途としての購入者増加に寄与しています。

エコライフステージにて
ていたん&ブラックていたんと

トマトカレーと
九州栄養福祉大学の学生さん

肌荒れトマトを活用した
Gill&co.さんの『ぬか炊きディップ』

成果と今後の展望

◎子ども食堂支援

孤立しがちな家庭の子どもたちに、子ども食堂開催時にトマトによる食育をしています。配布したトマトをこんな料理で食べたなど教え合い、新しい食べ方を追求し、食を通じた楽しい想い出づくりの支援になっているようです。

◎循環型土壌保全

トマト葉と珈琲カスの植物性堆肥・培養土を利用することが環境保全につながることが徐々に広まり、環境への配慮意識の醸成に貢献しています。

◎エシカル消費

どうせ買うなら同時に社会貢献できるモノを、というエシカル消費の意識が高まっており、本業の響灘菜園の生鮮トマトへのお問い合わせも増え、弊社の保育園の利用者も、上限定員を維持しています。加工用途への試験トマトサンプル依頼も毎月来ており、私たちの活動への理解の深まりを感じます。

主な協働機関	地域、企業、教育機関、行政機関、NPO法人、研究機関、医療従事者
選考委員からの評価	●食から社会的課題へ実践的な貢献をしている。 ●生産、消費、廃棄(再利用)といった循環の仕組みが確立されている。 ●取り組みを通じた社員の意識や行動の変化が見える化されると良い。

奨励賞

受賞者の活動紹介

株式会社 サンレー

企業部門

活動名

地域住民の「心のサポーター」めざして

活動目的

高齢化率の高い北九州市では、高齢者の健康と福祉が市民の幸福に直結します。そこで自社の研修施設や各地セレモニーホールを可能な限り地域住民に無料で開放し、健康寿命を延ばそうという主旨で「笑いの会」を開催するなど、地域高齢者が集い楽しめる機会を提供しています。災害時の避難所に指定されたことで地域住民の安心の柱として、冠婚葬祭互助会として培ってきたおもてなしの精神も大切に、「心のサポーター」役を目指しています。

活動概要

◎地域コミュニティ

自社の研修施設では毎月開催の「ともいき倶楽部・笑いの会」を始め、趣味のヨガ教室や、地元中学生の演奏会、地元演劇団の演劇などが開催され、セレモニーホール（紫雲閣・三礼庵）もコミュニティーホールと位置づけ、大ホールを無料開放し、地域団体の総会や発表会などに利用されています。

◎地域への貢献

道路サポーターとして登録した3施設や周辺の清掃活動に参加するほか、北九州市成人式のゴミ拾い活動に協賛し、ゴミ袋を提供したり、国の登録有形文化財となった「世界平和パゴダ」の存続活動を支援し、地域住民の心の安寧に貢献しています。

NPO法人抱樸との協働でホームレスの葬儀や就労支援や募金活動にも協力しています。

◎グリーフケア士の養成

2021年に新設されたグリーフケア士の資格保有者が、死別による悲嘆を抱える遺族の心のケアにあたっています。

ともいき倶楽部笑いの会には
周辺住民が集う

小倉紫雲閣大ホールでの
地元幼稚園の発表会

サンレー提供の袋で
ゴミを拾う新成人たち

成果と今後の展望

地域住民へ活動の場を無料開放する取り組みは、社員教育では「葬儀ができるホール」から「葬儀もできるホール」と意識づけして行いました。その結果、高齢化で結束が弱まっている地域コミュニティが強化されただけでなく、社員にも変化が見られました。当社は「人間尊重」を大前提に、冠婚葬祭を通じて良い人間関係作りのお手伝いというミッションを掲げていますが、社員には人生の多様な場面で地域住民のお世話をするという意識が浸透し、本業における「おもてなしの精神」も高めています。

今後も「笑いの会」の実施拠点を増やし、人口減対策には若者向けのイベントを行うなど、社会貢献活動を質、量ともに充実させていきます。また、「住み続けられるまちづくり」を地域住民とのパートナーシップで創造し、市の健康づくり推進プランのスローガン「健康（幸）寿命プラス２歳」と共鳴しながら、「人生100年時代」に備えたいと考えております。

主な協働機関	地域、企業、教育機関、行政機関、NPO法人
選考委員からの評価	●高齢化率の高い北九州市にとっての課題解決を見据えた取り組みで、SDGsの3つの側面から地域に根ざしたさまざまな活動を行っている。 ●今後は社会貢献から社会連携への発展を期待したい。

その他今回応募いただいた皆様

市民部門

団体名	北九州市立 曽根東小学校
活動名	「カブトガニ復活プロジェクト」

団体名	北九州市立 市丸小学校
活動名	守り育て伝えよう市丸の宝「ガシャモク」

団体名	北九州市立 中井小学校
活動名	わたし・地域・世界「つながり」プロジェクト ～SDGs未来都市アンバサダーになって、 北九州でも、世界でもできる取組をしよう～

団体名	北九州市立 富野中学校
活動名	SDGsの視点を生かした 協働的・主体的に取り組む態度の育成

団体名	北九州市立 菊陵中学校
活動名	コロナ禍でもSDGsの思いをつなぐ・ひろげる

団体名	北九州市立大学 フェアトレード推進団体 Etica
活動名	Etica

団体名	北九州エンジョイント事業 八幡西市民アカデミーかがやき塾
活動名	かがやきコンサート かがやき講座

団体名	団塊サロン葛原「青春時代PARTⅡ」
活動名	団塊サロン葛原「青春時代PARTⅡ」

団体名	北九州市女性団体連絡会議
活動名	『災害と女性』 知る。学ぶ。命を守る行動へ！

団体名	戸畑区北沢見地区環境衛生協会 沢見市民センタークラフトクラブ さわみババアズのエコな知恵袋
活動名	不要になった着物、洋服、古布を 実用的にリサイクルする活動

団体名	北九州市立 大里東小学校
活動名	川のことを調査し、川を守る意識を高め、 持続可能な社会に繋げる「大川探検」

団体名	北九州市立 中島小学校
活動名	小倉祇園太鼓

団体名	北九州市立 則松中学校生徒会
活動名	東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨・令和2年7月豪雨復興支援活動 北九州市応援活動（コロナに負けない、北九州の底力） 則松中学校生徒会「第3回きずなプロジェクト」

団体名	北九州市立 足立中学校
活動名	SDGs「住み続けられるまちづくり」の 目標達成に向けた「花いっぱい運動」拡大プロジェクト

団体名	福岡県立 小倉東高等学校 モルック普及委員会
活動名	キタキューモルックプロジェクト

団体名	国際交流PJ FIVA
活動名	笑って、楽しんで、学ぶ。 北九州で国際交流を通して多文化共生社会を目指す。

団体名	高須地区 社会福祉協議会
活動名	だれひとり取り残さないまちづくり 「たかす元気プラン」の推進

団体名	山寺川ほたるを育てる会／ 山寺川をきれいにする会
活動名	山寺川ほたるを育てる会／ 山寺川をきれいにする会

団体名	ジオ＆バイオ研究会
活動名	できたらいいな、「ジオパーク」 ～北九州の大地と自然、産業、文化をつなぐ～

団体名	門司港 かふぇギャラリー 源氏屋
活動名	1.清滝神社奉賛会と協働して令和3年4月18日～5月7日に 「清滝神社 鯉のぼり イベント開催」 2.門司港の地域の清掃活動を2019年9月から定期的に実施継続

その他今回応募いただいた皆様

団体名	SDGs勉強会
活動名	SDGsを自分事として捉えて実践できる人になる！ SDGs勉強会

団体名	私たちの未来環境プロジェクト
活動名	北九州市内の海岸周辺をキレイにして 持続可能な社会のきっかけづくりを目指し続ける 「海とふれあいプロジェクト海岸周辺清掃」

団体名	北九州市婦人会連絡協議会
活動名	SDGs17のゴールに向けて パートⅢ 私たちにできる 身近なSDGs ～実践の確認から　さらなる理解と実践活動へ～

団体名	一般財団法人 仁泉指導会
活動名	子どもたちへの職業体験機会の創出 キッズチャレンジエキスポ・キッズチャレンジキャラバン・ キッズチャレンジオンライン

団体名	特定非営利活動法人 里山を考える会
活動名	海辺のSDGｓシネマダイアローグ市民上映会

団体名	日本カブトガニを守る会 福岡支部
活動名	カブトガニの棲む海を未来に！ ～カブトガニとカブトガニの棲む海の未来を変える挑戦～

団体名	子ども食堂ネットワーク北九州
活動名	子どもの孤食対策、居場所づくりのための 子ども食堂ネットワーク活動

団体名	一般社団法人 ココカラ
活動名	街もココロもカラダもクリーンアップ 「ゴミ拾いヨーガ」

団体名	特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所
活動名	「楽しみは、いつもの暮らしの中にある（住みたいまち、北九州）」 コロナ禍 子供たちと活動しながら 描き続けてきました。 東アジア文化都市北九州2020▷21 パートナーシップ事業

団体名	NPO法人 わくわーく
活動名	たのしい輪☆ぷろじぇくと～Bamboo boon～

企業部門

団体名	無添加ハウス
活動名	北九州にいる10万人の尿モレ患者の悩みを解決し、 ゴミ削減と元気ハツラツな女性を増やすSDGsな活動

団体名	株式会社メディクリーン
活動名	安全運転によるCO_2削減を図ることで 温暖化防止を目指す

団体名	MCPジャパン・ホールディングス 株式会社
活動名	私どもは九州全体の金融機能の基盤強化を担うべく、福岡国際金融都市構想に参画いたしました。九州には環境技術やクリーンエネルギー関連、資源循環に関する優れた技術開発に取り組んでいる企業が多く、SDGsに資する環境系事業にチャレンジする事業者に対して投資ファンドやグリーンボンドの組成を通じ、九州発、日本さらにはグローバルな事業展開を支援します。

団体名	ダイキンHVACソリューション 九州株式会社 北九州支店
活動名	『空気で答えを出す会社』として サスティナブル社会に貢献する

団体名	第一生命保険株式会社 北九州総合支社
活動名	チーム北九州 SDGsな未来へ ～北九州地域において 最もお客さまに選ばれ続ける生命保険会社を目指して～

団体名	東京製鐵株式会社 九州工場
活動名	需要創出（上げデマンドレスポンス）による 再生可能エネルギーの使用拡大

団体名	神楽フィースト株式会社
活動名	ワイン廃棄の「もったいない」を無くす啓蒙活動

団体名	一般社団法人 おもやいファーム
活動名	農福連携おもやいプロジェクト にんにくの小さな1粒1粒が人と町と社会に美味しさと 元気を与えてくれる「乙村式にんにく」を育てています。

団体名	ヤマト運輸株式会社 北九州主管支店
活動名	きれいな空を守るために「物流」ができること

北九州市のSDGsの取り組み

北九州市では、SDGsの達成に向けて、
以下のSDGs戦略（ビジョン）に基づき、さまざまな取り組みを進めています。

「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」

北九州市SDGs未来都市計画の策定

令和3年3月に、第二期となる「北九州市SDGs未来都市計画」を策定しました。
SDGsを原動力に地方創生や地域活性化を図り、「市民生活の質（Quality of Life）の向上」「都市ブランド力の向上」につなげ、「日本一住みよいまち」の実現を目指していきたいと考えています。

●第二期北九州市SDGs未来都市計画について

URL：https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/02000156.html

北九州ESD協議会

団体紹介

北九州ESD協議会は国内RCE（国連大学認定ESD推進拠点）として、持続可能な社会の実現を目指して、ESDを推進しています。
魚町商店街にある「まなびとESDステーション」を拠点に、地域（商店街・市民センター等）、市民団体・NPO、教育機関（大学や市内小中学校等）、企業、行政等のさまざまなステークホルダーとともに活動を行っています。

主な活動

- ESDを広めるための広報誌等の作成
- 海外RCEとのオンラインセミナーの実施（※RCEとは国連大学が認定する「ESD促進のための地域の拠点」です。）
- オンラインによる講演会の実施
- 市民センターの活動を紹介し、参加者同士のオンライン交流会の実施
- ユースによる出前講座の実施
- イベント企画を通して、ESDを市民に向けて周知

会員

85団体（市民団体44、学校・教育関係15、企業11、行政15）、
個人会員56名（令和4年3月末現在）

実績

平成18年度　国連大学からRCEに認定（国内4番目/現在8地域）
平成29年度　「地方自治体施行70周年記念総務大臣表彰」受賞
平成29年度～　令和元年度（3年連続）
「ユネスコ日本ESD賞」（ユネスコ主催）国内候補として推薦

所在地

北九州市小倉北区魚町3丁目3-20中屋ビル地下1階
（まなびとESDステーション内）

イベントプロジェクト

北九州SDGsクラブ

団体紹介

さまざまな課題解決を目指してSDGsを達成するには、産・官・学・民が連携し、市民一丸となって取り組む必要があります。北九州SDGsクラブは、さまざまなステークホルダーが自由に参加できる場を提供し、会員の交流や情報交換を通じて、それぞれの活動が活性化することを目指しています。

●ホームページはこちらから

URL: https://www.kitaq-sdgs.com/

活動内容

●交流会

会員の活動発表やワークショップ、情報交換会などを定期的に実施。

●セミナー

SDGsへの理解を深め、市民や企業などへのSDGsの浸透を図る。

●プロジェクトチーム

複数の会員が連携してSDGsの達成に向けて主体的に取り組み、地域課題の解決を目指す。

プロジェクトチーム活動の様子

団体　市民　学校　企業

SDGs達成への先駆的な取り組み
地域課題の解決
会員間の連携促進

↓

イノベーション加速

取り組みの『具体化』　SDGsの『見える化』

↓

地域課題の新たな解決モデル

令和元年度に発足したプロジェクトチーム

北九州市の地域防災力向上のためのアクションプラン
提案者:明治学園高等学校

企業・事業所対抗「ウォーキング大会」
提案者:日本生命保険相互会社

教育コンテンツ Rethink YAWATA
提案者:株式会社JTB

学びのスクランブル交差点
提案者:永末 康介
(北九州市立大学 基盤教育センター)

令和2年度に発足したプロジェクトチーム

北九州のまちを美しく!プロジェクト
提案者:日本たばこ産業株式会社

紙の循環から始める地域共創プロジェクト
提案者:紙の循環から始める地域共創プロジェクト推進フォーラム

令和3年度に発足したプロジェクトチーム

北九州みらいキッズプロジェクト「出張子ども大工」
提案者:大英産業株式会社
株式会社大英工務店
桑の実工房

●SDGs経営サポート

地域の企業が事業活動を行う上で「SDGs」の視点を取り込んだ、いわゆる「SDGs経営」を推進できるように、SDGsクラブ会員の金融機関が必要な支援を行う。

経営戦略へのSDGs活用に取り組む企業の支援

企業の皆様が抱えるSDGs経営の課題

SDGsクラブ会員企業

さまざまな業種
製造業、運輸業、飲食業、農林・水産業など・・・

SDGs経営の課題例

様々な金融機関によるSDGs経営サポート

国内事業　海外事業

地方銀行　都市銀行　銀行
生命保険会社　損害保険会社　損害保険会社

エントリーシートで依頼

SDGsクラブ事務局

ワンストップで情報提供

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 北九州 Kitakyushu SDGs クラブ SDGs Club

会員 1,793(企業840、団体230、学校245、市民478)(令和4年2月末現在)

事務局 北九州市、北九州商工会議所

北九州SDGs登録制度

昨今のESG投資や脱炭素の潮流を踏まえ、SDGsの視点を企業経営に取り入れた市内事業者の取り組みを「見える化」することで、企業の競争力を高め、地域経済の活性化を図ります。

ESG投資・脱炭素の要請が急速に高まる中で、地元企業へSDGs経営を普及

地元企業の競争力UPによる「自律的好循環」の創出

要件 1 「経済・社会・環境」を網羅した12項目の取り組み

要件 2 重点的な取り組みに、数値目標を設定

要件 3 地域貢献の取り組み
（子ども食堂、公園・道路維持等）

選ばれる企業に！

- サプライチェーンから
- 銀行・投資家から
- 就職先として
- 消費者から

●ホームページはこちらから

URL：https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00016.html

高校生SDGs選手権大会

地域課題等に関心を持ち、解決策を考える探究学習での成果を発表するコンテスト大会を実施しています。

北九州市域の高校
（公私立計41校中）の約半数が

SDGsをテーマとした
「総合的な探究の時間」の授業に
取り組む・取り組もうとしています。

●動画の視聴はこちらから

URL：https://www.youtube.com/channel/UCFU_r4YFKwgRKh5v_ROajMA

SDGs未来モデル発信事業

SDGsに積極的に取り組む市内企業（20社）を、市内の学生（大学・高等専門学校）及びライターが取材し、動画を作成しました。

動画を広く発信することで、市内企業におけるSDGs経営の普及・促進を図ります。

●動画の視聴はこちらから

URL：https://action-kitaq-sdgs.com/

北九州SDGsマーク

多様な主体（SDGsクラブ会員、SDGs登録事業者など）が、北九州市と連携してSDGsに取り組んでいることをPRできるツールとして、独自の「北九州SDGsマーク」を制作しました。

Kitakyushu
SDGs

コンセプト

多様な主体の連携によってイノベーションを生み出し、
社会課題の解決に向かうのがSDGs

- **SDGsのゴールアイコンと同じ17色を使用**
- **様々な形が重なり、交わり合う様子を、「地球」というシンボルで表現**

●マークの詳細はこちらから

URL：https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00027.html

SDGsに対応し、環境に配慮した報告書として作成しました

◎管理された森林の木材を使用しています

認証された森林の木材や再生資源からできた製品であることを認証するマークで、用紙調達から全ての製造工程において、特別な管理体制を実施することで、森林認証紙を確実に製品化した証のマークです。

◎リサイクル適性マーク

紙、板紙へのリサイクルが可能な印刷製品に表示するマークです。印刷用の紙へリサイクル可能なリサイクル適性Ⓐマークと板紙へリサイクル可能なリサイクル適性Ⓑマークがあります。

◎グリーンプリンティング（GP）認定マーク

印刷関連事業所全体及び製造工程の環境配慮基準を達成し認定されたグリーンプリンティング（GP）認定工場が製造し、紙、インキ等印刷資材がグリーン基準に適合した印刷製品に表示できるマークです。

北九州市印刷物登録番号 第2107017B号